

***** メリークリスマス 1992 *****

慎んでクリスマスと一足早い新年のご挨拶を申し上げます。

我々にとっては今年もまたおもしろい年でした。全体的にみると由紀子の年だったと言えます。今年の始めに博士号をもらい、五月にイリノイ大学の卒業式に出席しました。その時に、一味の父が出席できたことは私達にとって大変嬉しいことでした。八月からの新学期は由紀子は授業を持たなくてもいい一学期間でしたから、研究活動が進みました。更に、パデュー大学内の研究助成金が取れたので来学期も授業を持たないで研究活動に専念できることになりました。（うらやましい話です。もちろん、由紀子が教えない分私にお鉢が回ってくるわけですが。）

一味は、ほぼ相変わらずですが、一つ変化がありました。新学期に初めてコンピュータの外国語教育における利用方法についての講義を行ないました。以前からやりたがっていた授業だったので本人も楽しんでやりました。もちろん、バスケットボールをすることも試合を見ることも続けています。（自分でもよく飽きないなあと感心することがしばしばあります。）

去年に比べて今年の夏休みは賑やかでした。まず、一味の父が五月に来て、一週間ほど滞在しました。由紀子の卒業式に出席したほかは、おもに大工仕事に明け暮れました。というのは、今年の夏は裏庭に屋根付きのポーチを作る予定になっていたからです。土台のための穴堀や材木きりを父と子で一所懸命やりました。一味のにとってはあまりこういう機会がないので、楽しんでいました。工事は結局11月までかかり、最後は由紀子と一味が床のタイル貼りを自分達でして終わりました。（実際、タイル貼りではひどいめにあいました。由紀子のほうがたくさん仕事をしました。アメリカのDo-it-yourself精神にも限度はあります。）

それから、七月の終わりに由紀子の姪と友達が遊びに来ました。二人とも11歳の女の子でラフィエットに数日いた後、みんなでフロリダのディズニーワールドに行きました。みんな楽しんだのですが、一番面白がっていたのは一味のようでした。今度は子供抜きで行きたいと思っています。日本の来客の最後は九月に入ってから来た一味のいところでした。親戚が来たのは今年が初めてです。（これからも、どんどん来てください。大工仕事で歓迎します。）

我家の動物たちは一年間健康で過ごしました。チビタンは今もミーチャンと顔をあわせる度に襲いかかりますが、そのうちに痛い目にあうことでしょう。（本当はもう何度も痛い目にあっているのですが、懲りていないだけです。ようするに、頭が足りていないのです。）

といったような年でしたが、皆様の一年間は如何がでしたか。来たる年が皆様にとって素晴らしい年になりますようお祈りしております。来年もよろしく願いいたします。

畑佐 一味
由紀子

***** 頌春 1993年 *****